

古典の読み方

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 学校でも古典を読むように勧められます。社会人になっても古典を読むとよいと言われます。お年を召した70・80・90歳台でも、古典に返ることが一番の勉強とされています。
こんなわけで古典を読まれる方がたくさんいらっしゃると思いますので、今回は「古典の読み方」について私の個人的な考えをお話させていただきます。
3. まずは、古典とは何かという話から始めます。古典は古くから読み継がれている名著、つまり優れた内容の著作です。古くからといっても様々で、論語は約2500年も前から読まれています。夏目漱石の著作は約100年前のもので、100年ぐらい経っていると古典と言えると思います。つまり、江戸・明治・大正時代頃までに書かれた作品は古典であると思います。
ただ、今は令和ですので、昭和時代に書かれた代表的な作品も古典と言ってよいかもしれません。もしかしたら、第二次世界大戦前に書かれた作品も古典かもしれません。また、20～30年前に書かれた作品でも、読み継がれているものは古典だと思います。
とにかく古くから読み継がれている名著が古典です。
4. 古典と呼ばれる名著は、日本はもちろん中国やインド、ロシアにも、ヨーロッパ・北米・南米・アフリカなどのあらゆる国々にもたくさんあります。
では、古典にはどのようなジャンルがあるのでしょうか。次に、そのお話をいたします。
5. 古典には、小説・詩・短歌・俳句・戯曲などの文学や哲学、思想などいろいろなジャンルがあります。哲学書としては、古代ギリシャの哲学者であるアリストテレスやプラトンの著作が有名です。思想書としては、中国の思想家である孔子の教えを弟子たちがまとめた「論語」が有名です。
6. 中国には、「論語」のほかにも、私たち日本人がよく知っている古典があります。その一つは「四書」で、「大学」「中庸」「論語」「孟子」の四つから成っています。「孟子」を著したのは、自分で孔子の一番弟子だと言っている思想家の孟子です。
また、道家の祖である老子が著した「老子」・道家の代表的著作である「荘子」・兵法書の「孫子」も古典です。

7. 唐の皇帝であった太宗が問答したときのことば、例えば〈立派な政治をするには、部下たちの厳しいことばを聞かなければならない〉などを収めた「貞観政要(じょうがんせいよう)」も古典です。また、この時代の詩人であった杜甫(とほ)と李白(りはく)の詩も古典です。

これらは中学校・高校時代に漢文の授業などを通して勉強しましたので、親しみを持っている方も大勢いらっしゃるでしょう。

8. 日本にもたくさんの古典があります。平安時代から鎌倉時代にかけて書かれた紫式部の「源氏物語」・清少納言の「枕草子」・吉田兼好の「徒然草」などの触りを中学校や高校のときに勉強した方は、これが古典だと知ったことでしょう。

9. 明治時代になると、福沢諭吉が「学問のすゝめ」「文明論之概略」「福翁自伝」などを著し、勉強をもっとしよう・日本の文明はこうあるべきだなどということを伝えました。これらも古典です。

また、「奥の細道」を残した松尾芭蕉は俳諧の大家ですが、その俳諧の発句(第一句)を俳句と定義したのは正岡子規だと言われています。正岡子規も「病牀六尺」などの素晴らしい古典を書きました。

二宮尊徳の「二宮翁夜話」「報徳記」、女流作家の樋口一葉の「たけくらべ」「にごりえ」「大つごもり」「十三夜」も素晴らしい古典です。

10. このように、世界の国々にも日本にもたくさんの古典があります。そこで、どのように古典を読むのがよいかというお話をします。一番よいのは原文で読むことで、中国の古典なら漢文で読むのです。しかし、これはなかなか大変ですので、現代語訳で読むとよいでしょう。

ただ、「奥の細道」に関しては、古文の部分は現代語訳でもよいですが、俳句を現代語訳すると親しみにくくなり、味わいもわからなくなります。ですから、通釈は現代語訳を参考にし、俳句は元のままで読んでいただくのがよいと思います。

11. 古典全般では、自信のあるものは原文で、大変なものは現代語訳で読むのがよいでしょう。ただ、あまり無理をしないでください。例えば「二宮翁夜話」や「報徳記」は、非常に難しいです。私も一度は挑戦しましたが、二度目は手が付かない状態です。ですから、皆さんも難しい古典を読むときは最初は現代語訳で読み、それから原文に挑戦するのがよいと思います。

できれば声を出して読むことをお勧めします。特に宮本武蔵の「五輪書」は原文を声に出して読むとわかりやすいです。そのほかの古典もぜひ声を出して読んでください。